

《解説》

It is perhaps as well that the facts should now come to
light, for I have reasons to know that there are
widespread rumours as to the death of Dr. Grimesby
Roylott which tend to make the matter even more terrible
than the truth.

1. "perhaps" は"おそらく"とか"たぶん"。

"probably", も、日本語では、"たぶん" ですが、英語でそれぞれの可能性に違いがあるようで、

Certainly	100%
Almost certainly	95%
Most likely	90%
Probably	80%
Likely	70%
Maybe, Perhaps	50%
Likely not	30%
Probably not	20%
Most likely not	10%
Almost certainly not	5%
Certainly not	0% だそうです。

([Home](#) で戻る)

2. as well “同様に”、“同じように”という意味の熟語です。

([Home](#) で戻る)

3. the facts should now come to light “^{事 実} ^{～すべき} ^{光 を あて られる} 事実が光の下に来るべきである”

後続の文章で、“噂が事実よりずっと恐ろしい話として広まっている”と書いてあります。ですから、『そんな話ではなくて、本当のところはこうなんですよ』と伝える義務が自分にはある、とワトソンは思っているのですね。

([Home](#) で戻る)

4. as to ^{～に 関して} これも熟語で“～に関して”

([Home](#) で戻る)

5. make the matter ^{事象、出来事} “make the matter ~” で“(事態を) ~にする”

常套句として“to make the matter worse”“もっとひどいことには”があります。

([Home](#) で戻る)

6. more terrible than ^{恐ろしい} “～よりももっと恐ろしい”。

“もっと(より) ~だ”という時は、形容詞の後ろに“er”をつけて、“taller” (より高い) “faster” (より速い) と変化させますが、長い単語の場合には(母音が二つ以上あると、と学校では教えますが)

“more”を使うのです。

近年大ヒットした『アナと雪の○○』の舞踏会の場面で妹が姉に話しかける場面。

“You are beatifuller. No, I don't mean “fuller”, more beautiful”と言い換えるところがあります。“native”でも間違えることがあるようですね。

([Home](#) で戻る)

《要約すると》

それに、ずいぶんと尾ひれがついて世間に広まっているロイロット医師の死にまつわる事情を知っているものとして、真実を語る義務があるのではないか、とも思ったのである。